泮水園句集

乾

へ5
6661
1

泮水園句集成。其徒。乞序
於余。余与叟孫。交数十年。
固不得辭矣。獨索近復
職偲偲。又非昔日之飄茂
也。雖然同調之誼。寄可闡
一言。夫叟之為人。看花必

述苍之寓意。望月即唱月之實景。加之句意穩當。蓋獲祖翁之活法。殆使詩彩者添辟三舍。實當代之能傑也。世人尚叟之本領。采恒以此稱之。故姑記斯語。以為序。

元治紀元甲子首夏平家清影題于章魚巷假屋

君水隱士李易書

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

津水園句集巻之上

春

歳旦

元旦やひとつ一あらう

我家そといそぐ新年の春

うぶの去巨燈人をなつかしむ

年をとる人まつふ

此ごろよりまれる春也今年の春

東都にて

指南うけ年ぶりにて行のき
花のやあるふんまるつの花
雪もかれ雪をおろへ門の松
石見守よりあがりたりけるや
京へとなるは状ひらかるる
古人はるかるひきをけるく
つゝ行やゝ京への物を筆はじめ

蓬莱を
四五年ぶりにて来る時を
賀
斎藤弟人
あらたまるつゝ又つゝ年の始れ
山村氏ら彩雪り
年の雪を行るく
第代をよるのきれ宿は去

[illegible]郎のうまれたるを祝ふ

福引や先づ宮詣の戎あきうど

大和郡山市の墨なる可憐を

家業牧畜よおこるたのもしき

風雅の道ふかきあつまりのうち

祖父の生れあり尾張の清風

よすがらんとうれしあんこと

初老のまつりを迎へて祝ふ

[illegible]

新宅賀

[illegible]門松春戸の梅

ある人に初老を祝ふ

うたもまつのうれしきの代の松

武蘭の人に

三世屠り

世を延べあんの一年の庶幾ふ

小村雪岱七十賀

松もとゝ七十年をまつみかな

ある人八十賀

何事も為の為にこそ百寿

梅室老人八十賀

まけてこそ勝ち年は童歌

初鶯

鶯のよ所へ寄るこそ初鶯

初春二月のさかりに鶯の鳴ける初の日

きくとなくこゑもやはらぎ鶯

左義長

たちそめ初めのぬるき火

ふるまつもまつもまつもそのれ

茅蔵

たれくと万年をまつ蔵哉

まつ年の来るを押合ぬるの

ゆくすゑの[illegible]
あるくもの[illegible]
のこるとはなくを何ぞ
うしろをかへりみんと
萬歳をまつ[illegible]

雜歌

きらくなるかなる中より好ある雜者哥

城の北の原にある布施の家を
こまぬぐうちはひくに雜者の
健をあひこ[illegible]
年に廣の[illegible]
いつしか仙業をひめられんと
[illegible]

初春

里やうくまるうしろに雷

風吹たゝひとりや行のまつ
よき山とくふるそ山へ[illegible]

若菜摘

雪踏てまつ川[illegible]播
[illegible]集まはしく休んく[illegible]

市忘

[illegible]

霜八

霜八の先花のるやうに舟
下霜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪をうこかしてこいるうぐいすの声を
たづねへ酒をたづさへ吟めうん
なと世事を忘れ詩作にふけるさの者
朱茸をたちろく蕗味の佳なるをを結ひ
佳人こいの
しるべとなる
ものうらやましやうらやましや
梅
梅の一日あらそふ
梅のうちやあるやうり梅の宮
うるはしやあ井戸の下れらめ花
坂をうるふなぶらなるうめ花
旅人のからを通ふり梅の宮
百姓のうるはしやめうらめ花
塚うやうるはの梅はこうん
山宮つはうるうらめ宮
ものうるはなれうるはれ

中なかとこ屋あるこめの花を
聖廟九百五十年御忌奉納
梅よ如りかくもひのこと枝こそ
おちこくはなよ結く
如の梅よまはけとひらけ梅の花
ふる如れ古はけく竜吟梅一志
下掃こ尺これを宗こめの花
うつかりとしこ梅こ梅の竜

とこふとふ在原乃春よ梅は紀
伊乃国屋より梅の木枝を
めこまこつのやしこ引
我春をふ乃
梅は自ひこれ
をこ乃ひこ
うへのこ人乃
梅よ中一源光孝

[illegible]

白川村をうつして志賀にうつる

まつ葉より咲つゝ梅の花

清風徐来

自ら香をうつす梅の花

ゆふ月の和歌をうつして月と梅

あまの知らぬかくれのあり月と梅

[illegible]

田家の春色は[illegible]梅

梅をかりたるのやとも

とゝまりて梅をうつして梅柳

[illegible]ものゝ梅柳

柳

梅がえを[illegible]

うゝ[illegible]幹をうつす柳

しらあに梅や小川の中ニすく
伸よとて帰るゝ墨ぞなきまゝ動
百姓の門ゟ春たなり 柳の子
夕風にかまぼ る見れ 命を生て居り
いきの人亭も ほうより ゆきさき 柳れ
夏の江くこゝ地に枝をれ きど梅
足あやみかれもめでたる 梅の子
言よ手ぶ はつらり 言すの柳れ

落葉

古庭や花垣の中ニ落付にけり
岩ねを何ど おり小枝ふまきの葉
雪まけ あふれもまうしらに落の庭
梅のうち蓑人の枕を通ひ福あるは
沼なる乃目の里 取るに沢付の
氣よひくまする利 まうしらにしく
ひとり水のみ ちるえて おりわれ
家たるや 猪も豆腐こ みまの庭

行　雪ぬけぬ[illegible]
路辺[illegible]
雪

雪を問し今は[illegible]
うゑ[illegible]
雪の[illegible]
うゑ[illegible]
雪や[illegible]

堀川の[illegible]
[illegible]
雪を[illegible]
うゑ[illegible]
雪の[illegible]
雪[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆくとしや鶯人ひらくと鶯も
うくひすの啼やそこらの梅
鶯やちらぬ花に日のあたる
鶯の風のうしろへまはりけり
うくひすの声にあはや朝日影
郊外眺望
鶯のたかくや小家の垣ほちち
鶯や雪しらねばなれ解

去年の冬雪の山路をわけやく
思ひ出のとしかくも宿ある
まとめまて
捨しまでしらず鶯をよ
鶯なりやうくひすの声に流るゝ
捨山に閑居を結びて
うくひすの声も先たつ茶のけむり
白魚
しら魚のまたまつ春しのぶころ

白魚やこゝろもとなき網打屋
しら魚や白きを見つけてうれしなる海の月

春風

春風やゆくへしらぬ恋の山
春の海のこゝろ穏やかに凪わたる舟
春風や堂も三重の塔の上
野に出れば吟ずれば春の風
春雨や降るとも見えぬ濃やかさ

寂しさや花も実もなし松の秋
春もすがらの月の秋を
奇特老人の剃髪したるを
うらやまし髪なくなりたる風
世を捨て山にかくれし人もがな
秋はまた何を思ひ出で
仮名草子の面影なるべし
情田の情をすてゝ閑居
昭君の琴の音の風

雪解

[illegible]

春雪

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさ雪や終夜ふてのこる
降雪の中や市中はたらく連

露

まつ前ふる雨に露ちる日枝哉
川くのこゑみだるゝむすびかな
野の露月はぬれぬ山の端
野路の四五町ゆく雨の
ちらくと露乃ちる雨の

霧ふる雨は端山ふる雨　別雨

稲妻

ふるさとの雨ちる中や夕の
牛馬ゝ雨霧ゆゝ雨ちる
ものゝ人ゝ舟さん雨ふる

除夜

雪の雨と雪ちるわれよりん
たゝまつる世ねの雨の雪ふる

小流れの菜なはける金宝に
掃きてくきる雨のちぎれ雲されて
雪折よ曲れあくのうまよん哉

長閑　挿中

のとかさや枝さし出しれかれの風船

二月

むしろ帆よ小舟のまはる二月かな
探く去く赤雲のちぎれ二月かれ

春風よ飛ゆく出して二月来

涅槃会

寺よ只松のはなしや仏ん縁

春月

髭そる又おもひのまるの月
田にはしぼるも来二月の春の月

常縁まく

常も寐て降る菜花の春の月

待月

袖まつく女の子志らし朧月

雉子

家移りに山すそ野の二鶏哉

磯山や杉ふく中よきしの蝉

うつ清く下に雉子鳴山根哉

夕山や日のあたりすきまの二鳥

若葉立ころや清しや雉子の妻

雉子なくや人道はれ来る 村はずれ

野きさ畑りたての野らに 雉子の声

まつ見えぬ里は三ヶ所

内あらしやや出ん雉子の声に蝉

日も入りてなくや山もの明のきし

蕨

古き芽を来て三ヶ所に生ゑゐる

もくれや乙ゐる川 枕乃生ん

志賀の里

つくづくや秋の海人の家

田家

野径も秋の人なれて雲

歸雁

松風やこゝの家やとへる雁

蘆たの秋よりまさる海ゝ

こゝろよとゝまれ雁なれの雁

こゝろ秋時こたゝれとへる雁

乃雁やまさに海きはのつく

こゝ雁秋

ゆく雁の名残や赤と松さら

雲雀

雨ふれや人の松さら

ゆふ雲ふる人の松さら

こゝろやけの空こゝのゝやゆふ雲

洛西野宴

丹波へ[illegible]

蝶

蝶の[illegible]蝶[illegible]指人の[illegible]
[illegible]尾の蝶[illegible]
人の[illegible]蝶の[illegible]切[illegible]葉
[illegible]

[illegible]

蝶の[illegible]蝶の[illegible]

[illegible]

[illegible]蝶[illegible]所[illegible]戸
[illegible]蝶の[illegible]
[illegible]蝶[illegible]里[illegible]

[illegible]

[illegible]蝶の[illegible]

[illegible]

[illegible]

蝶

[illegible]

[illegible]

蜂

[illegible]

[illegible]

猫恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅梅

[illegible]

接木

うちかへし接木もつきし柿の皮

畑打

ちる花のそこら畑うつ孫の世話

畑うちや嵐をさまれは又ひとり

ちらの手へはる打あちら向き

畑打を跡してゆくや鳥のしき

宗考

東都中の弟

此ころの不二を扱よ風巾

あるなか樹まゐる

春風や月のとまりに中の川

伏水御

凡巾揚て子供もしらぬや牛の尾

鮭

箕これいとへつろし鮭の点

一日も雨もしらの中解まつり
高人の丁寧ってこれなるの礼
をはたまを持つてふる解との那
ゑのをの山をくまをのうを山の山
解のをの山をあ背をく茶ゑあ
あをの神の白を祝をく
をつ解の兎ををを代も
解ををを持ををく祝り

まををを祝の白をををく
ををををををををををを
ををををををををを
祝をを
永日
なををををををををををを
庚申の酒の
海を祝をををを

永き日や人のうへて居るか　牛耳村松

菜花

なの花や汁にまゐる隣芦雲

旧里

菜花はなれにおあるもの生のかね

椿

ちる椿や小笹の中にちる椿

洛千

伐株や花の精れまなびるたれら

松の木のふ人くるゝたれ

あらし山までこる

旅人の嵐やもくまんまかり

あるのや精ものむきむのけ

岩根のむとらぬ鞍をそて言

ほら貝まかるき入みたなへら

松のけや菜あるけるむかね

備後は西東の里たかふ山川を
あらし山の風に京はいよ〳〵かはり
此山川を流れくるあまた人の
舟はしの板をふみて都の面影
傳るけれや都の名もさへあり
なにはとへ人とふ京へ行事を
ならのし
花は見んせよけふ見るみやこ
何かし山
淀河にこりて渡り
門掃して由あるさまにしやうなけれ

一日桜月發の今日
まゐりては許され侍るも京人に
とか居
三井寺ゆきもかへるに庭の面に
なにかなしに
せんぬまん人をまちて花のあはれ
なんの桶をもち鯛のまゐり
読人しらずて
魚まで鯛らしとはれに亀の村

咄もとひとりも出て三者継
さまさまに二年を越なる旅人
ありしもくやしきかな旅人の俳句
見るものきくものにつられてあれ
ほとけも禅杖の旅をたのしんと
このまへ乃五律に新たに続く
この俳の教くる宗の
　　　　　某　いたり
あさ人の百回忌は
　　　　　白きかれく
一日も菅を手折りけり
　　　　　某さし

先師芭蕉翁百回忌
俳や花よりまさるねかひのり
　東都にありて　拾椎軒某
たよりなき俳りやむかしもちろは
明るは人も雪月花なりけり　某
こころをもとめては人のうへに見
其やとうて語りも出にけり
まちかまちて一人まちこのそへ作り
しるこしめ月　十月あまり

[illegible]

[illegible]

一人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

無ふ家くく東山とめるる

月はなくなりぬ梅はなほ香ひ

入あのこのゆふべ　ちる花ふ

夕ぐれ乃はるるや京を　見ぬめるる

宮原の花ん　梅こ梅こ梅の

梅園の梅風　さ　ー　四条

大路を西郎　よる

うこの人原京　ふもうき梅の乳

あら山井　はるはるおひる

さくらんちと　人の

うちおるる　ゆきてうまた

今ぞ今　今日もさくらの

梅の花

都は梅　大なる　ぬ

うう吉原の　ゆ

みつ　ま　ま　ま　梅ある梅ふる

探花

立とまる人珍らしや寺の花
垣こしや椛してらるゝたれの花

飄くる風をたより傍への椛山
よい法子ニ出るとく幾日
き清りぬはまるのいくな

又つくゆる畑やとゝめたつみ花

夜

菊こもりや浮まのまね藤の花
其のまゝの花夜のそれ
是迄そ鳥のまゝよみはな

連翹

半翹もゝとうつまね桶乃乃

躑躅

折もて花つくしや里も走寺

山吹

山吹の花咲のうるはしみ
八重咲の花のうつろひ世間
柴刈のこころ山路
草

世間の蘭はうつろ
ものみまほし
春雨の春の夜の月
春草

摘草

つくしつみ摘草
摘草
字治の摘草
春内せんわらべ
人こゝろ
同日
夕ぐれの摘草一せき

春山

のちかすみてゐる人こまの山

こもの木梅と桜

たちぶけ山はるかすみ成ぬる

君の

梅ちりすぎぬ桜まさかり

暮春

ふるさと平城郡

ゆくすゑはあちら河原の京

ひとちるは春よりかくるさくら

くまの春やまこあるはの

山ぶれ

歌

こゝろやすくこゝろ人百

ちくさあるとなりぬ

西の

ちるよまれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正月廿六日　市ヶ谷橋ヶ[illegible]

東都市街

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺の母の身まうとを悔く
なの事ふるとて神まも酒の春の面

桃

日和のそあるをなりてもふ
和りまを拾ひとるの桃乃花
ものくよ高の事大きの花
解まとて物をなるて桃はも

花

九重村まく
春乃和や拾和まるきみの泡
田ままの面
背戸へさい梅大あるや花雄

春景

綾子雲雀明まく出まを
郭ふこあるよ　和りるす
をまさるまるよ第まるくく

世をのがれて人のもとめに
応じて山の中に住居する
日をもよく人をもてなす
世をすぎわひの都の市井
家業術
たちまちに人あり去れば
業本を歸せ
ばるるを去りそのあと

夏

如月

第一の月の名和名抄
に月令に積雪の
消

やうやく人のおとづれ絶
不動尊に打目をまち給

袷きてくるしのとおもふもなし
袷とくさ浴みよこのくし本縞袷
我ひとり都の空をなかめつゝね
いまや諸国をまはるなるらむ
思ひなくばなかなか袷る　雅人
とくもとれ袷の下をなくなる肉
父母をとゝ思ひのところ
あさふかや清されくり初袷

伊勢まで行しぬ老の坂らちも
としくはふまゝのまきく　未ゆくやのこ
春や夏をまかりなつ袷

麦秋

麦秋やもしろ路でも夏のよ
まち秋やのすりの中は日まで入ぬ

經秋

みゝらのいゆるみや高みゆき

[illegible]

[illegible] 嵐長[illegible] 明[illegible]

牡丹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かまくらに景はせめてのぼり
さしぬのよせてけるや枯るの
　　ちまきあるく
うわ和よまくあ射るぬるきつるる
　　蕨花
時ゆかまくらるるる法の射
　　芥子
うるくと時るるひるけの法

鶏抱く人のもとめあり芥子抱
ぬきり見ものの海さけ
ゑまきる一室を宝ちまの花
もれ出まきる射ちるよ首のけ
　　世人のうんもあんう
ぬるかもぬるの資うり芥子の
あるもと二年ぬるぬ法うり
此寺のもとけや今まま北花

坂本の里

去程に[illegible]の[illegible]は
今の[illegible]

[illegible]情

[illegible]そ[illegible]和[illegible]
[illegible]人一周忌[illegible]

人[illegible]一[illegible]

[illegible]記

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新樹　[illegible]

[illegible]

若楓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の里[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏野

[illegible]

立山

[illegible]

立山[illegible]中なる[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]と出て[illegible]

[illegible]

不[illegible]ひるて[illegible]神[illegible]

行[illegible]

[illegible]一[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]行の[illegible]

牛若丸や閻魔おとりおとせども　出合の屋

時雨

同年十月二日　時雨

花の上に松をかまへて　郭公

たちまちたちまち山賊入る

あまをとこ人の伸びや　郭公

松ヶ崎月をたちまち宮ぶまず

身をわれはせねばなりきた

柿の実あり柿の実自然や　時雨

ちりあるとあるとあると

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪のうちはなをながめて
さく花をまちつるやうとも
やはい
[illegible]
海月信[illegible]
時鳥聞なはつかせ大井川
三[illegible]
水鳥の色乃はすの
[illegible]

老鶯
うぐひすの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なまこの入れを拾ひて手にする
四郎兵衛に風を加へられんこと
沼をも家をもだまんく用ある
行くこと
点てをやしくこと無やうこと

改

池鯉鮒駅やとうく
市の改をみこと出ること

改

東海道を改をなすこと
俥をのること
改をなすこと
寝ることの法やら白ることの外
九月中あるべきこと

京都へ

付ることこと人を遣ること

菖蒲

[illegible]

五月雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一里[illegible]

夏月

[illegible]

人住ぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又[illegible]

百合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初茄子

いつまでもうんでもうんでも茄子

今年米

初茄子

ここもとの一のるくらよりよりて米

豆腐こく

青梅

青梅や毎年ちるこの枝

柿花

ちるなとあるるちるや柿の花

田植

ちるもののうらぶれ田植かな

蕎麦のけや田植の島井筒の一豆ひ

跡の雲乃きのふとなる田植かな

たれ踏まもとる田植の多修れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川中や[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

署

清水の月の夜ふけて
西の空はしらみそめぬる
鳥のけをつくろふ
あかつきの
夕立
夕立をさそひぬるかぜ
ふるさとの
夕立のうち

雲峯

峯ぶかく
堤あのれいそうの
古木千
象潟や
象潟や雨に
西行
園扇
あをぎてこそ
ちりぬ
裸身
そらゆく

[illegible]

市中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源

[illegible]

夏の暮る此一時やゆつたり美
さのもまた夏もあの涼の
柳屋風さの表をまろうたらく
夢うつる杖はろうん夕たつみ
塵乃涼さ下
たつたやたれ
涼しさや石のせく垂雪乃に
涼風や高ら一月たつ

田かや
すゝさや豆のうけに言ふ月
南人形改を行く
塩つぬるの杖ら程夕ぎつみ
金乃の新屋を行く
涼風や人も寝ぬるつゝへん
たつこの世や夏ぬ涼しさ人の世
涼しさや人ぬうるをうる夕

風薫

松のけむりゆふべとまれば風のまる

夕べ

うちつけに雨降ぬ夏の日

水すまし捨て側に男子の角

清水

さらさらと日の出へ出る三尺

ちまのせとまる捨る清水

影やへ人ぶりうる捨番

此ごろは捨ものあれば清水

人ぶ鬼ぶ捨を

百姓の品ぶれ清水れ

捨子

松の根に捨子あり

なまこ〜ゐる泣の

蓮

[illegible]

夕顔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

庚州

[illegible]

[illegible]

蟬

[illegible]

夕風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何のまをらひつめてやとりぬ

蛍

むらさきや樹をはなれ蛍

行つゑの新蕊の揺や蛍狩

川狩

川のうらを連れ山ゆかりへあまる

秋色

[illegible]月の末の[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

未

山吉寿丸事時分

申

永享月日又十郎殿ヶ[illegible]